

平成 2年 6月26日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

鳥の多い場所

今、自分の手元にあるノートから、最近3～4年の間に青梅市内で観察できた野鳥を抜き出してみました。すると、その結果は、126 種となりました。もっと多くの人の記録を集めたり、或は更に以前の記録にまでさかのぼれば、この数はこれにより増えていきます。例えば、青梅市教育委員会編の『青梅市の自然Ⅱ』によれば、過去に青梅市では、163 種の野鳥が記録されたとあります。これまでに日本で記録された野鳥が 525 種（高野信二著、フィールドガイド・日本の野鳥より）ですから、市内では日本の野鳥の3割程度が観察できたことになります。

さて、野鳥のごく大まかに、その鳥が山野性であるか、水辺性であるか、というように分ける場合があります。その鳥の生活の中心が山野か、水辺かという考え方です。これによって、126 種の鳥をその2つに分けてみると、山野性の鳥が99 種、水辺性の鳥が27 種となりました。武蔵野の平地と奥多摩の山地との接点に位置し、大きな湖沼や広い河川敷の存在しない青梅の環境を考えてみれば、これはごく当然の結果ということになります。そして、青梅の山林で見られる野鳥は、日本中部の代表的な山の鳥達ばかりです。

では、これらの鳥達が青梅の山野にまんべんなく分布しているかということ、そうではなく、その種類や個体数には場所によりかなりのムラがあります。市内の山林の大半はスギやヒノキの植林地ですが、これらの林は餌や営巣場所がごく限られてしまうため、残念ながら多くの鳥達にとり、住みにくい場所となっています。

野鳥の多い場所は、環境が多様性に富む場所、たとえば自然林や畑や水田が混在する場所、であるのです。市内でこの様な場所をあげると、御岳山や霞丘陵、大荷田丘陵などとなります。これらの場所では、年間を通じ80～90 種程度の野鳥を確認することができます。野鳥が多いということは、その存在を支える餌としての小動物や植物が多いということにつながります。

青梅市内には、ごく珍しい鳥が生活するという意味での貴重な場所はありません。しかし、珍しくはなくても、多くの鳥達が生活できる場所が残されています。このような場所は、多様性があるという意味で、今や大変に貴重な場所なのです。しかも、私達のごく身近な所にあるのです。次代に伝えるべき青梅の立派な財産だと思うのですが…。

(文責 櫻岡幸治)